

別記1 様式

実質化された人・農地プラン

市町村	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
嬭恋村	田代地区	令和3年3月30日	令和6年3月15日

1 田代地区の現状

① 地区内の耕地面積	1,300ha
② アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	753ha
③ 地区内における60歳以上の農業者の耕作面積の合計	73ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	31ha
ii うち後継者がいない農業者の耕作面積の合計	42ha
④ 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	118ha
【備考】 中心経営体(認定農業者等)	119農家

2 田代地区の課題

①農地中間管理機構の利用が少ない。
②字吾妻山の一部、五輪地区は急傾斜地で降雨時の表土の流出を防げない状況にある。これらが原因で石が掘り出され機械を壊してしまうなど農地内の耕作率は7割ほど。利用条件が悪く耕作放棄する農家もでている。
③地区の大半が不整形で傾斜地が多い。沈砂地や土地改良事業で区画整理されている区域もあるが条件のよい農地を求め他地区の農地を借り規模拡大している状況。
④土地改良事業を進めたいがクリアしなければならない条件もあり(受益金等)容易にいかない。

3 田代地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

①相対での貸し借りを減らし透明性を図り中心経営体である認定農業者へ集積・集約を促していく。
②従来から耕作を続けてきたが手の打ちようがない。
③客土の実施で土壌改良とまではいかないが出来れば耕作地に不足している良質の良い土の搬入が必要急務。
④規模拡大の意向の認定農業者が多くいる。大区画化で効率のよい農地の導入。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

①④農地中間管理機構を利用し農地集積・集約化を図ることで基盤整備等に取り組む。
②新たな団地の造成。
③グリーンベルトの設置を推進するとともに沈砂地に流れ込んだ、のぼろ土(黒ぼく土)を運搬し畑へ戻し再活用することで農地の利用を継続する。